平成28年（2016）
阿づまの光
4月号・Aprilo

題字出口直日
通巻第５６５号
発行 大本東京本部
東京宣教センター
センター長 浅田秋彦
〒110-0008
東京都台東区池之端2-1-44
TEL 03-3821-3701
FAX 03-3821-5283
振替 00160-5-72625
URL http://oomoto-tokyo.com
Mail tokyohonbu@oomoto.or.jp

今月の聖言

ふるさとの産土神をたふとみて
道に仕ふる人のつましさ

出口王仁三郎聖師

教主さまお作 灰釉茶盌 銘「雲珠桜」

【リオプレット土＋ヨルダン土・万祥殿の雲珠桜釉】

走水神社（はしりみず）

愛善宣教課主事　鈴木林太郎

記憶のなかに風景があります。その場所は、私が育った横須賀市の東部にある走水海岸です。小中学生のころは、海水浴や潮干狩りによく出かけていました。海岸の東側には急坂がせまっていて、自転車を止めずに坂を上りきれるか、友だちとよく競い合ったものでした。ようやく坂の頂上にたどり着くと、眼下に東京湾を一望でき、その壮大な景色は、幼なごころのなかに、何か誇らしい感情を与えてくれました。

この小さな集落には、古くから建つ走水神社があります。祭神は日本武尊（やまとたけるのみこと）と同后の弟橘媛命（おとたちばなひめのみこと）。奥宮には天照大御神（あまてらすおおみかみ）、須佐之男命（すさのおのみこと）、建御名方命（たけみなかたのみこと）の三体のお宮があります。

幼少期の走水神社にまつわる思い出は、元旦の潮風が冷たく吹くなかを、祖父に連れられて自宅から片道3キロを歩かされた場所、というだけのものでした。大本史のなかでの因縁事を知ったのは、ずっと後になってからでした。

今からちょうど１００年前の大正５年５月６日、浅野和三郎海軍機関学校英文学教授を訪ねられた聖師さまは「神さまのご用で走水神社まで行ってくる」とおっしゃって、同社にご参拝になられました。

この年に、聖師さまは奈良の橿原（かしはら）神宮と大和三山の畝傍（うねび）山のお社にご参拝され、その後、横須賀支部に入られたことや、それから首都圏宣教が本格化したことが記録にあります。

また、初夏から秋にかけては、聖師さまのご神格がみろくの大神であることが明らかになった神島開きの出修神事があり、大正５年がいかに重要な年であったかが拝察されます。

１００年巡って、今年の10月16日には、聖師さま関東ご巡教１００周年の走水神社祭典が、教主さまご隣席のもと執行される予定です。

１００年前の聖師さまのご足跡をお偲びして、今度実家に帰ったときに、走水神社まで歩いて行ってみようと思います。

大本公開講座

明るく素直に前向きに②

～大本四大主義～

関東教区特派宣伝使
小藪資史（こやぶもとふみ）

みろくの世のために

大本の四大主義は、世界規模のことから私たちの生活の末端に至るまで、すべてに関わる教えです。世界中で起きている天災や紛争、流行病なども元をたどれば一人ひとりの心のあり方や、日々の生活と密接に関係しています。

また、四大主義は宇宙の呼吸、宇宙のリズムであるともいわれます。そして、四大主義は、どこへどういう時に出しても、時と場所に関係なく間違いのない普遍の真理であると示され、「清潔主義」「楽天主義」「進展主義」「統一主義」の四つが相関連しています。さらに、相助け、補い合っているものなので、どれか一つを実践するにも他の3つが関わってくるものであり、どれか一つが欠けても全体がうまくいかないものであると教えられています。

人生の目的について大本では、万物を創造した神さまの経綸に参画し、神さまのお力をいただいて、天分を発揮することと示されています。

人間はその重責を担う尊い存在ですが、四大主義はその使命を果たすために、重要な役割を持っているのです。

罪と穢れ

「清潔主義」とは、〝心身修祓の大道〟と示されています。修祓とは「祓い」「清め」「きれいにする」ことで「浄化」ともいいます。

大自然のはたらきに、太陽光線（日光）や雨、風などがあります。日光は除菌し、雨、風は空気中や大地を祓い清める作用があります。これは、常に浄化しようとするはたらきであり、それは人間が意図する、しないにかかわらず、天地の姿として、リズムを保って行われています。

浄化のはたらきは小宇宙といわれる人の体内においても同じように行われ、垢や汗、排泄物が出ることで、体の中を清潔に保つ作用があります。また目に見える汚れについては意識して、入浴などで清潔を保つことができます。

ところが、心には気づかない間に、埃（罪・穢れ）がたまっているものです。

出口王仁三郎聖師が詠まれた次のお歌があります。

身の垢は湯水石鹸であらへども
洗ひがたきは心なりけり

普段、目につく場所であれば、掃除をすればすぐにきれいになりますが、テレビや、たんすの裏などの意識の薄いところには、いつの間にか埃がたまり、しかも時間が経てば強力な汚れになりがちです。これは心に置き換えても同じことがいえ、目に見えない部分だからこそ、一層強く意識をして「清潔」「浄化」することが必要なのです。

〝罪（ツミ）〟という言葉は、一般的には道徳や法律などの社会規範に反する行為をいいますが、大本の教えでは、一義的には内的な心の罪を指します。良いことと分かっていてもそれを実行しなかったり、自分が良いものを持っているにもかかわらず力を発揮しなかったりなど、自己を偽り続けて包み隠す。また、心に積み上げていくことが〝罪〟になります。さらに、〝穢れ（ケガレ）〟とは、悔みや消極・批判的な、気が枯れてしまう行為や思いをいいます。人間は普段の生活において、これらの目には見えない心の埃も祓っていく必要があるのです。

省みる・善言美詞

王仁三郎聖師は、

大三災小三災の頻発も
人の心の反映なりけり

と詠まれ、天災や飢え、病いなどすべては、人の心の中にある恨みや妬みなど、醜悪な気持ちが反映されて起きていると説いています。ですから、私たちは心を清らかに保つ必要があるのです。

その方法の一つが「省みる」ことです。人は神さまから、直日の霊（みたま）という心の鏡をいただいています。良心ともいわれますが、この心の鏡に自らを映して、自分自身を見つめることが大事なのです。自身の過ちや悪い癖から、つい目をそむけがちですが、良い部分と悪い部分の両方をしっかり見つめて、反省することが何事においても大切です。

そしてもう一つが、「善言美詞（ぜんげんびし）」を意識することです。美しく善い気持ち、思いをのせた言葉を使うと、場を清めたり、良い精神状態を保つことにつながり、人の肉体と精神を清める作用があります。

清潔主義を実行するには、心を清らかに保ち、罪や穢れをつくらないようにして、過去や未来にとらわれず、本当に大事なことを見つめる必要があるのです。

「天命を知って人事を尽くす」

「楽天主義」は、単にラクな楽しみという意味ではなく、〝天地惟神の大道〟と示されています。惟神とは、神ながらで、神のみ心のままということであり、神さまからの命（めい）、すなわち「天命を楽しむ」という深い意味があります。

人や動物、植物はそれぞれの使命のもと一生懸命に生きています。特に人は、動物や植物に比べ霊が高等でありながら、自由意志が大きいことから、日々の生活の中で、一人ひとりに与えられた天命から外れてしまうときがあります。しかし、本来は与えられた天命を知り、人事を尽くすことが運命を切り開く上で、最も重要なのです。

その鍵は、「信仰的刹那主義（せつな）」にあります。これは楽天主義の根幹で、過ぎ越し苦労も取り越し苦労もせず、刹那々々に自分のベストを尽くして、神さまにお任せして生きることをいいます。神さまに任せるといっても、ここで重要なのは、単に依頼心から起こる神頼みではなく、神さまのみ心を尋ね、これを悟り、自分の最善・努力を尽くした上で、「神さまのみ心のままに」という精神で、最後は神さまにお任せすることです。

先を見据えて、一歩ずつ

「進展主義」は、進み開いていく社会改善の道です。

進展とは、いっさいのものが持っている行動の希望であり、向上心のようなものです。人間に限らず、動物や植物も生命力という進展する力を持っています。逆に人間は知恵や能力があるがゆえに、希望が持てないときや、消極的になるときもあるものです。しかし、そんな時こそ大きく広い視野で先を見据えて、前向きに進むということが大事なのです。

私たちの魂は滅びることなく、生まれ変わり死に変わりして、永遠に生き続け、栄えていきます。これを理解し、現実から離れず、今を一歩ずつ進めることが進展主義の本質になります。

統一とは調和

四大主義の中でも、最も重要なものが「統一主義」であると示されています。

宇宙をはじめ人体は、偶然ではなく必然的に、統一が保たれています。例えば、一年間は３６５日（と6時間弱）ですが、今年は３６０日だったとか、来年は３７０日だということにはなりません。毎年必ず一年間は３６５日で時を刻んでいます。それは太陽を中心に各惑星が規則正しく運行しているからです。

また、人の体も心臓をはじめ肺や肝臓、腎臓といった臓器がそれぞれの機能をはたしながら連携を保ち、統一体である人体を支え育んでいます。そして、統一のバランスが崩れたとき、体は異常をきたしたり、病気になったりし、統一が保てなくなったときに死を迎えます。人体において、すべての細胞や器官が生命を中心として、調和を保っているから健康でいられるのです。

要するに、すべてのものには中心があり、そのもとで統一が保たれているのです。グループにリーダーが2人も3人もいては結束できないのと同じで、リーダーが1人、中心が1つだからこそ、円満な統一が保たれます。そして、全大宇宙の統一の中心は神さまであると教えられています。

天国的な生き方

王仁三郎聖師は、「人は現実界にある間に、みづから心身内に天国を造りおく必要がある。しかして天国をみづから造りかつ開くのは、神を愛し神を信じ無限絶対と合一しておかねばならぬ」と、生きている間に自分の中に天国を築くことが大切だと示しています。

また、出口日出麿尊師はその要訣として、「一さい過ぎ去りしことのために頭を悩まさざること」「一さい未来を案じ過ぎぬこと」「心身を神にまかして、現在のベストをつくすこと」と示しています。大本四大主義は、天国的な生き方、そのものなのです。

掲載文は、平成27年12月16日に航空会館（港区新橋）で開催した「大本公開講座」講演録の要旨です。

東光苑月次祭・春季合同慰霊祭

東光苑月次祭・交通安全祈願祭・関東教区春季合同慰霊祭は、3月13日、午前10時30分から、斎主・猪子恒東京宣教センター次長のもと執行され、325人が参拝した。

祭員は千葉主会、少年祭員は千葉主会の武山なおひさん、あおいさん姉妹、伶人は宮咲会関東支部、大本神諭拝読は関谷荘一千葉主会長、添釜は神奈川主会が担当した。

祭典後、東京本部を代表して猪子次長があいさつに立ち、両聖地で開催される高校生講座のDVDを放映し、「春休みは、少年祭式講習会もあり、青年同志が誘い合っての大道場修行の受講も増える。このような後継者育成の場面では、直接、間接、多くの人たちの思いやりや気遣いによって成就する。自分に後継者がいるかどうかではなく、みんながそう思うことが大切」と述べた。

その後、祭典・行事案内、直会に移り、すべてが終了した。

斎主先達で天津祝詞を奏上（慰霊祭）

大本公開講座

「第157回大本公開講座は、3月16日午後7時から、港区新橋の航空会館で開催され、田中雅道国際愛善宣教課主幹が「世界平和の実現に向けて～大本と平和～」と題して講演した。参加者は29人（内、一般9人）。

講座では、大本がこれまで推し進めてきた、世界における平和活動を紹介しながら、「歴代の教主・教主補は常に世界平和を祈られてきた。宗教は本来、神さまのみ心に従って、平和を築くべきものである」と述べ、「世界の宗教が交流することで、お互いを認め合うことができ、力を合わせることで、世界平和へ向かう」と結んだ。

世界連邦で世界を一つに

参加者からは、「世界中で宗教同士の争いが激しくなる中、本来の宗教のあり方を学ばさせていただきました（男性・一般）」等の声が寄せられた。

東光苑春季祭式講習会

東光苑春季祭式講習会は3月19・20日の両日、東京宣教センターを会場に開催され、のべ21人が受講した。

受講者は、初級クラスが基本動作から後取動作・正中動作・祓式行事・月次祭まで、中級クラスが大神鎮座祭・祖霊鎮祭までを実習した。また、お給仕の仕方やお宮の清掃方法、祭服の着付けなど、信仰生活における基礎的な内容も学んだ。

なお、初級と中級クラスの内、9人が大本祭式認定試験に臨み、2日間の実習の成果を試し、祭式の修得に励んだ。

基本をしっかりと身につけた

●退職あいさつ　井畑　太（祭務課主事）

私事、3月で定年を迎え、本部を退職する運びとなりました。1976年4月にご奉仕に上がり、この3月でちょうど40年になります。東京本部に着任してからは7年が経ちました。あっという間であったような気がします。関東教区の皆々さまのご健康とご多幸を亀岡の空よりお祈り申し上げております。ありがとうございました。失礼します。

●着任あいさつ　神宮幸太郎（祭務課員）

サルートン。ミ、ダンカス、ヴィン、プロ、ヴィーア、ボンヴェニーゴ。

皆さまはじめまして。この度、東京本部勤務となりました、神宮幸太郎と申します。関東圏でのお仕事は、初めてです。右も左も、地理も分かりません。最初は、ご迷惑ばかりお掛けするかとは思いますが、温かく見守っていただき、ご指導賜りますよう、よろしくお願い致します。

東光苑祭典・行事予定

4月

3日（日）午前9時30分（9時受付）
新入信徒研修会（春の集い）

10日（日）午前10時30分執行
東光苑春季大祭

20日（水）午後7時～8時30分
大本公開講座（航空会館・港区新橋）
講題　ますます広がる21世紀の新しい社会
～立替え立直しの時代を元気に生きる道～
講師　藤原直哉（株式会社あえるば会長・エコノミスト）

24日（日）午前10時30分執行
企業繁栄祈願祭（34回）

29日（祝・金）午前10時30分執行
四代教主十五年祭

5月

4日（祝・水）午前10時30分執行
教主生誕祭・三代教主（114年）
教主補（119年）聖誕祭

5日（祝・木）午前10時30分執行
開教124年 みろく大祭遥拝祭

8日（日）午前10時30分執行
東光苑月次祭・市杵島姫命例祭

18日（水）午後7時～8時30分
大本公開講座（航空会館・港区新橋）
講題　患者の力を身につける
～がんの時代を生き抜くために～
講師　加藤眞三（慶應義塾大学看護医療学部教授）

大本東京本部ホームページ
URL http://oomoto-tokyo.com